独立歩兵第百一大隊略歴

陸軍中佐　山内又兵衛

年月日	概要
昭一九、三、八	編成下令
三、一七	福井縣敦賀市歩兵才百十九聯隊補充隊に於て編成完結す 編成定員　将校以下八百五十名　馬匹四十頭 部隊内編成は本部一、中隊四、聯隊砲小隊一、大隊砲小隊一　通信小隊一 中隊は小銃小隊三、擲弾筒小隊一　とす。
昭二〇、五、二〇	軍令陸甲才六五号により中華民国廣東省惠陽縣惠州に於て編成改正し完結し才百二十九師団独立歩兵才九十二旅団の編合に入る。 定員　将校以下一、三五八名、馬匹一三〇なるも部隊は従来の兵力を以て実施せられたるを以て、完結時の兵力は将校以下七八九名、馬匹三八頭、 部隊内編成は本部一、中隊四、擲弾筒中隊一、歩兵砲中隊一、通信隊一とす。
昭一九、四、一九	門司港出発
五、一三	中華民国廣東省九龍に上陸
昭一九、六、一四 七、二〇	廣東郊外砂河に駐留して廣東周辺地区の警備に任す 才一期湘桂作戦に参加

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	摘要
昭一九、七、二一	北江水路輸送警備	
八、九	西江沿岸自動車道路構築援護警戒及廣西省毋竹飛行場に向い前進行軍す	現在員五八二名
九、二四		内訳、将二、准士官二七、兵四三
二〇、三、二五	竹内飛行場並六都及其附近に在りて西江沿岸の警備	入院 一三二名
四、一五	廣東省恵陽縣坪山圩及其附近に在りて平淡公路の修築並に警備	死亡 八九名
五、一四		
九、一六	恵州及其の附近に在りて樟恵公路及東江沿岸の警備に従事	
八、一五	此間、停戦命令を受領す	
九、六	東莞縣清溪圩及其附近並に一部樟木頭及其の附近に集結	(戦死五一、戦病死三八)
一〇、九	廣九鉄路沿線警備	生死不明者四名
二、一七	東莞縣東莞集中營に駐留	残留者(現地)
三、二九		一名(脱亡)
三、三〇	内地帰還のため東莞出発	処刑者 なし
三、三一	東莞縣大平到着	浦賀入港後船内に於て
四、九	虎門港に於てV〇八二号に乗船、同日同港出帆	コレラ患者発生しそれが為
四、一七	浦賀港に入港	船内に於て死亡一三名
五、二〇	浦賀に上陸	入院一二五名(内入院
六、三	復員完結	後死亡二〇名)を生ず

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

13の内　南支

第百二十九師団独立歩兵第五百八十八大隊略歴

陸軍少佐　中西義英

年月日	概要
昭二〇	軍令陸甲才六十五号に拠る才百二十九師団臨時編成要領に基き同年陸亜機密才十三号に依る仮編成雷旅団独立歩兵才一大隊を基幹とし臨時編成完結、爾来廣東省白耶土湾地区に於ける対米英戦備に従事し停戦に至る
昭二〇、一一〇	波雷部隊独立歩兵才一大隊として仙台に於て編成、同日仮編成完結と共に東部軍司令官に隷属し仙台出発　下関（一部博多）より釜山経由
一、一八	満支国境（山海関）通過の時を以て才二十三軍司令部に転属し同軍司令官に隷属す。
一、二二	南京経由、呉淞着
一、二三	呉淞発、海路南下
二、二〇	九龍着
二、二五	同地発　同日廣東省番禺縣石牌着　諸準備を整え南支沿岸白耶土湾防備隊として
三、六	石牌発　廣九線中山大学駅より平湖迄鉄道輸送　平湖より行軍にて

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	摘要
昭二〇、三、一〇	廣東省惠陽縣淡水鎮着	
三、一三	同縣黄愈涌着	
三、一六	白耶土灣沿岸格木洞着　前進を中志とする正面約十粁の間に分駐警備並に陣地構築に任ず	入院　二五 死亡　四七 生死不明
五、二〇	南支港湾到着と共に独立混成第一九旅団長八谷支隊支隊長陸軍少將谷肇〉の指揮下に入り 臨時編成完結と共に第二十三軍戦斗序列に編入せられ第百二十九師団長に隷属独立歩兵第五百八十八大隊となる。	処刑 残留 抑留　一 現在員　九五五
八、一七	惠陽県淡水に於て停戦命令を受領し停戦詔書の発布を知る	
二一、九、五	白耶土湾地区撤収淡水鎮集結	
一〇、一二	中司軍の指示に基く廣東省東莞縣東莞集結のため惠陽縣淡水出発　龍岡墟―清溪圩―樟木頭―大朔圩―察歩墟を凡少る條件を克服	
一一、一一	東莞集結完了　爾後中国軍の指定する集中營に入る。	
二一、三、三〇	内地帰還のため東莞集中營出発	
三、三一	東莞縣大平到着	
四、九	虎門港に於て乗船　同日同港出発	
四、一七	浦賀港入港	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一、五、二六	復員完結す 虎門出帆後四月十二日を初日とし 船内に於てコレラ疑似患者発生せるため入港後検疫隔離せられ 上陸延期せらる。 残務整理者官氏名 部隊長代理 陸軍大尉 菅原 孟 副官 陸軍少尉 門馬 二三 書記 陸軍軍曹 小口 風海 外地派遣に方り概ね完全なる独立歩兵大隊として編成装備を完成せしめられたるにも拘わらず、仮編成部隊として派遣せられ、現地到着後三ヶ月にして始めて軍令に基き臨時編成部隊に編成せられたるは特異なる事項と認む。 終始陣地構築作業を実施作戦戦斗行動を為したる事項なり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第五百八十九大隊略歴

陸軍大尉　島村清次

年月日	概要
昭二〇・一・一〇	部隊は昭和二十年陸亜機密第十三号に依る仮編成要領に基き金沢富山松本に於て仮編成完結　波留旅団独立歩兵第五大隊（長陸軍大尉島村清次以下一五三四名）として内地出発
五・二〇	軍令陸甲第六十五号により第百二十九師団時編成完結　独立歩兵第五百八十九大隊（長陸軍大尉島村清次以下九九五名）となり現在に至る。
昭二〇・一・一〇	昭和二十年陸亜機密第十三号に依る仮編成完結東部軍司令官に隷属
一・二三	部隊全員第二十三軍司令部に駐屯　第二十三軍司令官に隷属
一・二八	上海着
二・二七・二八	上海呉淞に在りて待命間の諸訓練実施
二・二八	上海港出発
三・四	南支汕頭港上陸
三・六	独立混成第十九旅団長の指揮下に入る
三・一七・三六	汕頭附近に在りて潮汕地区警備
三・一八	廣東省潮陽縣河浦出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概
昭二〇、四、六	廣東省惠陽縣平山墟到着、各支隊長の指揮下に入る
五、一七	廣東省惠陽縣澳頭附近に在りて自耶土灣沿岸警備
五、一四	軍令陸甲第六十五号により第百二十九師団臨時編成下令
五、二〇	編成完結、独立歩兵第五百八十九大隊となり第二十三軍戦斗序列に編入せられ、第百二十九師団長に隷属し、依然澳頭地区に在りて自耶土灣沿岸警備
八、一五	停戦詔書受領、直ちに陣地を撤し、諸整理を完了す。
九、二	中国側の指令に基き廣九鉄路付近に集結
一〇、七	平湖に於て中国側に兵器弾薬資材、糧食、衛生材料、馬匹等を移護
一〇、九	中国側の指令に基き平湖出発
一〇、二三	廣東省東莞縣東莞に到着
一〇、二四	借用諸物品の移譲、所持品検査を受く
二、一〇、二九四	中国軍監視下、東莞附近に於て集中営生活をなす。
三、三〇	内地帰還の為東莞出発
三、三一	虎門集結
四、八	輸送船V〇八二号に乗船
四、九	虎門港出発
四、一七	浦賀港入港
五、二〇	浦賀港上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	摘要
昭二一、五、二六	復員式挙行　部隊解散 残務整理着官氏名 陸軍大尉　島村清次 同　片桐吉巻 外地派遣に才り完全なる独立兵大隊として編成　装備を完整せしめられたるにも拘らず　仮編成部隊として派遣せられ　現地到着三ヶ月を経て始めて軍令に基く臨時編成部隊に編入せられたるは特異なる事象と認む。	入院　五〇名 死亡　六六名 生死不明　三名 処刑者　なし 残留（現地）　なし

1099

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百二十九師団独立歩兵第五百九十大隊略歴

陸軍大尉　佐藤仁一郎

年月日	概要
昭二〇・五・二〇	編成完結　編成場所　中華民国広東省惠陽縣淡頭港（ハバイアス湾）
二〇・一一・一〇	陸亜機密第十三号ニ依リ第二十三軍転属者ヲ以テ仮編セラレタル波留独立歩兵第一大隊（歩四補充隊担任）及波留独立歩兵第五大隊（金沢師管区担任）南支到着ニ伴い矢ニ編成要員ヲ抽出シ軍令陸甲第六十五号ニ依リ前項日時場所ニ於テ編成セラルル
昭二〇・五・二〇	大鵬湾沙魚涌地区移駐築戦の為淡頭港出発同時ニ沙魚涌地区兵庫庭（広東人民抗日遊撃隊東江縦隊）の討伐
五・二九	沙魚涌到着築城開始
七・三〇	沙魚涌地区の築城警備ヲ歩兵第九十一旅団鶴見大隊ニ引継ぎ師団命令ニ依リ三家村地区転進の為沙魚出発
八・五	惠陽縣三家村到着直ニ築城準備爾后師団直轄となる
八・一四	停戦詔書の発布
八・一五	師団団隊長会議中大隊長之を承知し電報の上
八・一六	帰隊に直ニ隊下に伝達其の後依然三家村地区に在りて警備を継続すると共に兵器引継準備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	摘要
昭二〇・九・六	師団命令に依り広九線平湖地区油柑埔に向い転進	内地隊隊召集解除
九・九	東莞縣油柑埔到着 警備並に軍需品引継準備	八二一（全員帰還）
一〇・八	平湖東站に於て中国側新一軍新三十師八十九師団に兵器被服大部の接収並に呼名点呼を受け縣内集中営に入る	戦傷 六七 入院 一一
二・一六	集中営移転の為東莞南方四粁篁村に転進	現地除隊 一一
二・三・三〇	乗船の為虎門寨に転進	逃亡 七 二
三・三一	虎門寨着	死亡 七四八
四・九	太平に於て前後の帰還検査を受け	（戦死は戦病三九
四・一〇	三時V0九三号に乗船す	公病死 一）
	八時虎門港出帆	編成人員九六〇
四・一六	十七時浦賀港入港	
四・二六	八時浦賀上陸 同日隊召集解除	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百二十九師団砲兵隊略歴

陸軍少佐　伊藤宗平

年月日	概要
昭三〇一一〇	金沢市山砲兵才十六聯隊補充にて編成
一一一八	博多出港
一二二	山海関通過
一二七	吳淞着
二一七	吳淞出航
二二四	汕頭上陸
三一〇	潮陽出発陸路行軍
三三一	惠陽縣淡水着
四一〇	淡水出発　同日岩背着
	バイアス湾地区警備並に陣地構築
五二〇	改編　同日才百二十九師団砲兵隊編成

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百二十九師団砲兵隊略歴

陸軍中佐　上橋式方

年月日	概要
昭一〇・五・二〇	軍令陸甲第六五号に依り第百二十九師団砲兵隊編成引続きバイアス湾地区警備並に陣地構築
八・一四	停戦詔書発布
八・一八	復員下令
九・三	停戦協定締結
九・九	海背出発
二・八	東莞縣東莞着
昭二一・四・一	東莞縣東莞出発
四・二	火广着
四・九	大平出帆
四・　　四	復員完結
	一次　仮編成波部隊
	二次　第百二十八師団

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、九、九	海背出発し、砲弾聚を広九線平湖站に集結
二、四、一	求慈出発
四、二	大平着
四、九	大平V0九三号に求船出帆
	才百二十九斤団編成は仮編成波爵迫撃砲隊を主とし　南支軍の各砲兵を以て編成せる故を以て甚だしき混成状態なり
昭二〇、四、二六	浦賀上陸、部隊解散
五、一五	二日市復員　支部にて

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百二十九師団工兵隊略歴

陸軍大尉　城戸口　準

年月日	概要
昭二〇、一、一〇	昭和二十年陸亜機密才一三号に依る仮編成要領に基き、盛岡に於て仮編波留旅団工兵隊（本部及中隊）を編成し完結、輸送途中呉淞（上海）に於て金沢編成の中隊一を隷下に加入本部及中隊二、編成となる。 昭和二十年軍令陸甲才六五号に依り才百二十九師団の臨時編成要領に基き、廣東省白耶土地区に於て仮編波留旅団工兵隊の主力を以て五月二十日臨時編成を完結す。
一、一四	編成地（盛岡）出発
一、一七	釜山上陸
一、一八	釜山出発
一、二二	満支国境（山海関）通過
一、二五	呉淞到着　波留旅団の編成に入る
	輸送間　乗船地（博多）及上陸地（釜山）及呉淞に於て、装備用兵器軍需品を受領す。
二、一七	呉淞出発
二、二四	汕頭上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、二、二八	潮陽に移動　同地附近区の警備に任ず
三、一〇	潮陽出発　行軍を以て恵来 ― 葵潭墟 ― 陸豊 ― 海豊 ― 平山墟 ― 淡水を経て
四、一	恵陽縣澳頭郷姚坡田（白耶土湾地区）に到着す。 現地到着後独立混成第十九旅団長（谷支隊長谷少将）の指揮下に入り白耶土湾地区に於ける対米英戦備に従事中停戦時に至る。 此間主として築城作業、交通作業及同地区の警備に任ず
九、五	停戦後交通作業及警備勤務を続行し逐次兵器其の他の集積整理を行い
九、九	現地出発 東莞縣石龍に集結す
一〇、六	石龍に於て兵器及軍需品の大部を中国側に移譲す
一〇、七	石龍出発、同日同縣東莞市に到着 兵器（戦部）及軍需品の一部を移譲、同日より軍集中営に収容せらる 集中営に在りては専ら復員準備、精神修養、職業補導、体験に実施し其の傍中国側の労役に服務しつつ乗船を待機す。
昭二一、四、一	内地帰還の為東莞出発
四、二	同縣白沙到着、乗船を待機す。
四、八	虎門港に於て乗船

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二、四、九	虎門港出発す
四、一七	浦賀港帰着、輸送間船内に於てコレラ発生の為船内に隔離せらる。
五、二〇	隔離解除　上陸
	復員完結す。
	残務整理者官氏名
	陸軍大尉　茂木　義一郎
	陸軍軍曹　松浦　義男
	外地派遣に方り概ね完全なる工兵隊として編成装備を完備せしめたるにも拘らず、仮編成部隊として派遣せられ　現地到着後約三ヶ月を経て始めて軍令に基ずく臨時編成せられたるは特異なる事象と認む。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百二十九師団輜重隊略歴

陸軍大尉　小西一夫
陸軍大尉　田中正太郎

年月日	概要
昭二〇	陸亜機密才十三号に依り才二十三軍司令部転属要員として仮編成波留旅団輜重隊編成下令　同日編成業務着手
一一〇	本部才一中隊は金沢市輜重兵才五十二連隊補充隊才二中隊は弘前市輜重兵才七十六連隊補充隊に於て編成完結　将校二〇名　准士官以下九〇三名
一一四	才二中隊屯営出発
一一五	東部才一中隊屯営出発
一二五	才二中隊上海呉淞鎮上陸
一二六	東部才一中隊上海呉淞　呉淞上陸
一二二	才二十三軍司令部に転属
二一三	東部才一中隊及才二中隊の一部上海飯田桟橋出帆
二二二	同右南支香港九龍に上陸
三一八	中華民国広東省惠陽縣淡水鎮に到着爾後龍岡墟〜淡水〜平山墟道の道路補修作業
	才二中隊の主力は二月十八日　上海飯田桟橋出帆
	三月五日　汕頭上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇 三、二七	淡水鎮到着　爾後主力と同一作業に任ず
五、一六	軍令陸甲才六十五号に依り才百二十九師団輜重隊編成下令
五、二〇	中華民国広東省惠陽縣淡水鎮に於て編成完結
八、二〇	師団軍需品輸送及道路の補修作業
六、九	大隊長陸軍大尉　田中正太郎着任
八、一四	前大隊長小西大尉二十三軍野戦兵器廠に転属
八、二五	中華民国広東省惠陽縣鳥石仔に於て停戦詔書発布
二、一	復員下令
二、四、一	東莞縣東莞城子集結附近道路補修作業
四、一三	復員の為東莞城出発虎門受塞到着
四、二一	虎門出帆（V）七九）
五、三	浦賀港に入港　船内検診　上陸後伝染病発生の為二週間隔離
	復員式挙行部隊復員　帰国
	将校一七　准士官下士官九七　兵四三六　計　五五〇
	調製者　石川県江沼郡大聖寺町耳聞山三七番地
	畑　重

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百二十九師団軽重隊略歴

陸軍大尉　田中正太郎

年月日	概要
昭二〇 一・六	陸亜機密第十三号に依り第二十三軍司令部転属要員として仮編成波留旅団軽重隊編成下令
一・一〇	本部第一中隊は金沢市軽重兵第五十二聯隊補充隊、第二中隊は弘前市軽重兵第七十六聯隊補充隊に於て編成完結す、当時に於ける部隊兵力区分左の如し 本部四七、第一、二中隊各四三八　計　九二三
一・二二	第二十三軍司令部に転属
五・二〇	軍令陸甲第六十五号に依り中華民国廣東省惠陽縣淡水鎮に於て第百二十九師団軽重隊編成　編成時に於ける部隊の状況左の如し 編成　本部、第一中隊（軌馬）、第二中隊（自動車） 人員　将校一七、准士官、下士官四七、兵六一九　計六八三
昭二〇 一・一五	本部、第一中隊、一月十四日第二中隊各々編成出発
一・二五	第二中隊、
一・二六	本部、第一中隊　上海呉淞鎮に到着
二・一三	本部、第一中隊及第二中隊の一部は同地出帆
二・二二	香港、九龍上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇・三・一八	惠陽縣淡水鎮に到着、爾後龍岡處―淡水―平山處道の道路補修に任ず
二・二八	才二中隊は上海呉淞鎮出帆
三・五	汕頭港に上陸
三・二七	淡水鎮到着、前記本部才一中隊の道路補修に任ず。部隊は才百二十九師團輕重隊編成と共に爾後師團の軍需品の輸送並前記道路の補修に任じたり
八・一四	中華民國廣東省惠陽縣淡水鎮烏石仔に於て終戦下令
一〇・一〇	廣東省東莞縣東莞城に集結の目的を以て同地出発
二・一	東莞縣東莞城に到着
昭二一・四・一	本國帰還の為東莞城出発、虎門塞に到着
四・一三	V0七九丸にて同地出帆
五・三	浦賀港に上陸す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百二十九師団通信隊略歴

陸軍大尉　葛　秀夫

年月日	概要
昭二〇、五、二〇	軍令陸甲第六五号に拠る第二十三軍仮編成第一部隊通信隊を基幹とし廣東省惠陽縣淡水に於て編成を完結す
昭二〇、一一、一〇	仮編成第一部隊通信隊仮編成完結（長速水中尉）陸亜機密第十三号
一一、一三	仙台出発
一一、一六	下関港出帆　同日釜山上陸
一一、一八	鮮満国境（安東）通過
一一、二〇	山海関通過部隊は同日第二十三軍司令部に隷属
一一、二五	呉淞着　午後装備の充実並に教育訓練
二、一四	通信隊主力呉淞出帆
二、二〇	主力は九龍上陸　午後廣東に集結　次いで「バイアスレ」湾地区に移動、淡頭港附近獅子庵陣地の構築
二、二八	一部（長土田少尉）呉淞出帆
三、五	一部は汕頭上陸　陸路淡水に向う、渡辺伍長以下を器材及隊属貨物輸送の為残置

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、三、二六	通信隊の一部行軍に依り淡水着
三、二八	通信隊主力は築城を中止して淡水集結、各支隊を中枢とする有無線通信網の構成保守並に其の通信実施に任ず（各支隊は四月中旬より鵝沢中尉の指揮下に入る）
五、一	通信隊は陸軍大尉葛秀夫の指揮下に入る
五、一四	軍令陸甲第六五号第百二十九師団編成下令、同日編成着手
昭二〇、五、二〇	葛大尉は第百二十九師団通信隊の編成担任官を命ぜらる 第百二十九師団通信隊編成完結、長　葛大尉、副官、遠藤中尉、第一中隊（有線中隊）長、風間中尉、第二中隊（無線中隊）長、東水大尉
五、二七	師団司令部と共に淡水北方約六粁鳳凰山地区琴尾に移駐
六、上旬	鳳凰山に於て有線中隊の主力を以て洞窟築城に任ずると共に無線中隊は殆んど其の全力を展開し師団司令部両旅団司令部（総山地区隊・奥頭地区隊）憲兵警備隊（独歩百一大）平山憲警備隊（独歩九八六の一中）間の無線連絡に任ず。此の間兵力不足と給養の不全屢次の洪水暴風雨兵匪の不断の跳梁・敵機B29及B24の来襲に対する昼間行動の制限等の悪状況下に部隊は明日の決戦の為一致団結、殆んど休養の暇なき程に築城警備に通信所に補修に構成に精進す。
八、中旬	旅団通信兵力皆無の為廣東に要員を教育に派遣しあり終戦時迄旅団と各隷下

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	大隊間の無線連絡を師団通信隊に於て担任す。
	軍命令により五号に分隊を河源物資収集班に配属、此の分隊は任務終了帰隊
	時淡水附近に於てB29の銃撃の為器材を大破せらる
	七月中旬汕頭残置人員は隊属貨物を宰領、敵機跳梁の海上を通過追及す
	共産匪は近く師団司令部附近に出没し、或いは築城妨害に哨所襲撃に、又小
	数兵力狙撃等に跳梁し警戒勤務を益々厳ならしむ。
	七月より築城兵力は休養及給養の不全の為逐次消耗し患者続出し強健者は通
	信網構成保線警備築城又は輸送等に連続服務の状況を呈す。
	此の間、万難を排して寸暇を借りみ教育訓練に努む。
	師団鳩通信班の編成を命ぜられ、且兵団内鳩通信要員の教育を約一ケ月実施
	す。
八、一五	七月下旬淡水河谷及新井地区討伐に参加
	新圩地区移駐を準備中終戦
九、六	廣九沿線石龍地区集結の為塘尾出発　鉄道輸送及行軍に依り樟木頭（新圩下）
	に移動
一〇、上旬	軍需品を中国側に移譲
一〇、一〇	東莞集結の為新圩下出発
一〇、一五	東莞着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

18の外　南支

年月日	概要
昭二〇・一〇・二六	接収を受け集中営生活に入る
昭二一・四・二	乗船準備の為東莞出発
四・三	虎門寨着
四・一三	内地帰還の為虎門寨（沙角）より復員船Y0七九に乗船
四・二一	浦賀入港
五・三	浦賀上陸　久里浜援護所より引取容金に入金
五・一五	復員式実施　復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百二十九師団兵器勤務隊略歴

陸軍大尉　中川忠雄

年月日	概要
昭二〇、一、一〇	陸軍機密第十三号に依り金沢山砲兵第十六連隊補充隊に於て仮編成完結
五、二〇	自耶上湾地区淡水に於く軍令陸甲第六十五号臨時編成に依り第百二十九師団兵器勤務隊編成を完結す。
昭二〇、一、二六	仮編成の部金沢出発
一、二二	朝鮮を由山海関通過　同日第二十三軍二十三軍司令官の隷下に入る
一、二六	上海到着　同地に集結軍需資材の受領整備移動準備等に従事
二、一七	呉淞港出帆　海路汕頭に
二、二四	汕頭上陸　同所に待機
三、七	汕頭出発　陸路自耶上湾地区移動
三、二六	自耶上湾地区淡水に到着　各支隊長の指揮下に入り同地の警備並対米英戦備兵器次具材の補給整備等に従ず
五、二〇	第百二十九師団の臨時編成完結し師団長の隷下に在りて前項の任務を続行
八、一五	終戦の大命を拝す
九、八	廣九鉄沿線に集結のため淡水出発
九、九	樟木頭に到着　鉄道警備並に軍需品の移送業務に服す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	摘要
昭二〇・一〇・一〇	東莞附近に集結のため同地出発	
一〇・一六	東莞着　中国軍の指定に基き集中営に入る	
	爾後復員準備業務並に心身の修養鍛錬に努むる外、中国側の労役作業に従事し　十月十五日第二十三軍野戦自動車廠三名十二月十七日第二十三軍第十九野戦兵器廠移動修理班三十九名当部隊に転属し来る	入院　一四 死亡　一 生死不明　なし 処刑　なし 残部（現地）
昭二一・三・三〇	帰還命令に接し虎門に移動	
四・八	乗船	
四・九	虎門港出発	
四・一七	浦賀港に帰着	

残務整理員官氏名

部隊長　陸軍大尉　中川忠雄

隊附　陸軍曹長　石川徹

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百二十九師団第百二十九師団野戦病院略歴

陸軍軍医少佐 清河宗吉

年月日	概要
昭二〇、一、六	昭和二十年陸亜機密第十三号に拠り仮編波雷独立混成旅団野戦病院編成下令
一、一〇	金沢陸軍病院に於て編成完結
五、一四	軍令陸甲第六五号に拠り第百二十九師団野戦病院廃時編成下令
五、二〇	編成完結
昭二〇、一、一六	南支派遣のため屯営（金沢）出発
一、一九	下関港出帆　同日釜山上陸
一、二一	鮮満国境安東通過
一、二三	満支国境山海関通過
一、二八	呉淞到着待機
二、一三	部隊長以下一〇〇名呉淞出帆
二、二〇	九龍上陸
二、二六	廣東到着
三、八	廣東出発
三、一四	淡水着　白耶土地区築城作業に従事
二、一七	黒田中尉以下二九七名呉淞港出帆、二月二十四日汕頭上陸朝陽に疎開待命す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇・二・二七	山脇大尉以下一四〇名長沙出発、三月四日汕頭上陸朝陽に到り黒田中尉以下を掌握す　三月九日朝陽出発　三月三十一日淡水着木隊に合流す。
三・二〇	仮編成第四旅団は谷支隊となり支隊長陸軍少将谷肇の指揮下に入る。
四・一五	墩頭圃に野戦病院を開設せるも（五月二十日～八月二十日）同門野中尉以下四〇名を以て患者療養所とせり、爾担架中隊は策城に従事其の一部は附近道路警備に任ず。
八・一〇	稔山地区龍和岡に黒田中尉以下七〇名をして患者療養所を開設せしむ
八・二〇	主力は羊唐圃に移動　野戦病院を開設す
八・二五	担架中隊は容山嶺附近の策城作業に従事
六・一〇	担架中隊は紅花寨附近の討伐を実施　川端伍長以下四名の戦死者を出せり
七・一〇	担架中隊は炉団討伐に参加
八・一四	停戦詔書発布
八・二五	植村大尉以下五〇名を以て恵陽に患者療養所を開設せしむ
八・二五	十月八日中国側に資材の移譲完了　本隊に復帰
八・二四	山脇大尉以下五〇名をして石龍に患者療養所を開設せしむ
八・二五	十月五日中国側に資材を移譲　東莞に到り集中営に入る
八・二七	樟木頭に野戦病院を開設
一〇・一〇	十月九日中国側の接収完了
	樟木頭出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	摘要
昭二〇・一〇・一六	東莞着　軍集中營に入る	
二〇・一〇・二八	東莞に於て野戰病院開設	入院　三五名
四・二	東莞出発 〃	死亡　一六名
四・三	虎門着	生死不明　なし
四・一三	大平出帆	現地残留者　なし
四・二一	浦賀入港	
五・三	浦賀上陸	
五・二二	復員完結	

残務整理者官氏名

陸軍軍医少佐　清河宗吉

陸軍衛生伍長　岡田壽作

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百二十九師団病馬廠略歴

陸軍獣医大尉　中田竹三郎

年月日	概要
昭二〇、一、一〇	仮編成波留旅団病馬廠仮編成完結
一、一三	弘前出発
一、一七	釜山港上陸
一、二〇	鮮満国境通過
一、二一	満支国境通過
一、二五	呉淞着
二、一三	呉淞出帆
二、二〇	九龍港上陸
三、一六	才二十三軍病馬廠惠州支廠開設のため九龍出発
三、二五	惠州着
五、四	廣東省惠陽縣惠州出発
五、六	惠陽縣淡水着
五、二〇	軍令陸甲才六十五号に拠る才百二十九師団病馬廠臨時編成完結
八、一四	停戦詔書発布

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

20の内　南支

年月日	概要
昭二〇、一二、一	第二十三軍司令官の隷下に入る
三、四	香港防衛隊長の指揮下に入る
三、一六	第二十三軍病馬廠長の指揮下に入る
五、二〇	第百二十九師団長の隷下に入る
昭二十九、六	惠陽縣淡水出発
九、八	東莞縣樟木頭着
二一、三、三〇	内地帰還のため東莞出発
三、三一	大平港着
四、一〇	太平港出帆
四、二六	浦賀港上陸
五、三	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百二十九師団防疫給水部略歴

陸軍軍医少佐　岩崎与五郎

年月日	概要
昭二〇、一、六	陸亜機密第十六号に依り臨時編成下令
一、一〇	金沢陸軍病院に於て仮編独立混成波雷旅団防疫給水部仮編成を完結す
五、二〇	軍令陸甲第六十五号に基き南支那憲兵隊淡水に於て第百二十九師団防疫給水部編成を完結す
昭二〇、一、一六	金沢出発
一、一八	下関港出航　同日釜山上陸
一、二〇	鮮満国境通過
一、二二	山海関通過の日を以て全員第二十三軍司令部に転属
一、二六	呉淞着　同地に於て兵器被服衛生材料を整備し待機中二月十四日より左の通り南支那に集結す。

梯団＼区分	呉淞出発	九龍上陸	汕頭上陸	上陸地出発	駐留地到着
第一梯団	昭二〇、二、一四	昭二〇、二、二〇		昭二〇、三、三	昭二〇、三、二四
第二梯団	昭二〇、二、一七		昭二〇、二、二四	昭二〇、三、四	昭二〇、三、二六
第三梯団	昭二〇、三、二七		昭二〇、三、四	〃	〃

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一〇・三・八	香港港防衛隊長の指揮下に入らりめられ九龍地区の築城作業に従事
三・一八	各支隊長の指揮下に入り廣東省惠陽縣淡水に於て、三梯団は陸路汕頭より、淡水に集結す、隊屬貨物は第一梯団は列車及自動貨車に依り、第二、三梯団は概ね六月迄に海路到着、爾後ヒバイアスし湾地区にありて防疫給水業務
三・二五	築城作業及輸送に従事す
五・二六	部隊主力は淡水に於て
八・一七	羊頭囲に於て、師団防疫給水業務　陣地構築作業輸送及同地附近の警備に任ず
八・一三	部隊の一部は　廣東省惠陽縣獅子奄に於て陣地構築作業に従事す
	独立歩兵第九十一旅団長の指揮下に入られ　られ稔山地区の防疫給水業務に従事す
八・一四	停戦の大詔発布せられ
八・一六	詔書奉読式を挙行
九・四	駐屯地羊頭囲出発
九・七	東莞縣樟木頭に到着す
九・一九	一部隊屬貨物は自動貨車列車に依り日本隊に追及す
一〇・一〇	東莞集結のため樟木頭出発
一〇・一五	東莞着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	摘要
昭二〇・一〇・一六	同地に於て兵器弾薬及衛生材料等の接収を受く　爾後東蘆集中営に於て乗船待機中	
昭二一・四・二	東蘆出発・大平に移動	
四・一〇	末明乗船完了・同日出港	
四・一六	浦賀入港	
四・二六	上陸す	
	仮編成完結時　総員・二六三名	
	編成完結時	

総員	減少理由			減少数計
	死亡	入院	転属	
二三八	一	六	十八	二五

終戦時　総員二三八名

復員完結時

総員	減少理由			減少数計
	死亡	入院	転属	
一九九	一		三八	三九

死亡・入院は輸送間上海に於て処置す

転属は所内編成のため

総員一九九名中入院患者四名にして除隊召集解除者一九五なり

昭二一・五・六	復員完結	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百三十師団司令部略歴

年月日	概要
昭二〇、五、五	軍令陸甲第六十五号に依り第百三十師団編成下令
五、二〇	独立混成第十九旅団司令部第三三七次後帰完結
	第百三十師団司令部編成完結
五、二五	中華民国廣東省番禺縣北郊に移駐、同地警備
八、一八	復員下令
九、二	停戦協定締結
昭二一、三、二六	内地帰還のため廣門港出帆
四、二	浦賀港上陸
四、五	復員完結
四、五	陸軍少佐岩久伴三郎以下二八五名神奈川縣浦賀に於て復員

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第九十三旅団略歴

旅団長　陸軍少将　針谷逸郎

年月日	概要
昭二〇、一、六	軍令陸甲第一三号に依り大陸新設部隊編成下令
五、二〇	元独立混成第十九旅団及大隊新設部隊要員を以て編成完結す。
昭二〇、三、二五	仮編成歩兵第九十三旅団司令部（約一〇〇名）は西地区隊本部となり仮編成独立歩兵第九十九大隊仮編成独立歩兵第百大隊及指揮下に在りし仮編成独立歩兵第六百二十大隊仮編成独立歩兵第六百二十二大隊仮編成第百三十師団砲兵隊（第一大隊）及仮編成第百三十師団工兵隊第一中隊は廣東省惠東縣惠東附近に在りて西地区隊となり海岸警備及陣地構築に任ず（総兵力約六〇〇〇名）
五、五	此の間仮編成独立歩兵第九十七大隊は廣東省普寧縣普寧附近に在りて普寧地区隊となり警備及収米に　仮編成独立歩兵第二百七十七大隊は汕頭対岸覚石及潮陽縣達濠附近に在りて普寧地区隊となり警備及収米に　仮編成独立歩兵第二百七十七大隊は汕頭対岸覚石及潮陽縣達濠附近に在りて東地区隊長の指揮下に入り警備の陣地構築に任ず。 仮編成第百三十師団主力廣東附近移駐の為各駐地発（仮編成歩兵第九十三旅

21の外　南支

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概
	団司令部は五月五日惠来発）陸豊海豊惠州及廣東を経て五月二十二日前後（仮編成歩兵第九十三旅団司令部は二十三日中山着）廣東省中山縣中山梅園附近及同新會縣江門附近着
五、二二	歩兵第九十三旅団司令部（約一七〇名）は東地区隊（中山地区隊）本部となり中山に位置し以下独立歩兵第九七大隊（約一一〇〇名）は中山縣雍陌（中山東南方約二十粁）附近独立歩兵第九十九大隊（約一一〇〇名）は中山縣翠微（澳門北方約五粁）附近独立歩兵第二百七十七大隊（約一〇〇〇名）は新会縣梅閣（中山西南方約四十粁）附近に在りて、又指揮下に在りし第百三十師団砲兵隊第二大隊（約六五〇名）同工兵隊第一中隊（約一五〇名）及同第一野戦病院主力（約二〇〇名）と共に警備陣地構築及収米に任す（総兵力約四二〇〇名）
九、二	此の間独立歩兵第百大隊（約一〇〇〇名）は新會縣江門新會附近に在りて江門地区隊となり警備陣地構築及収米に任す
一〇、一三	停戦協定締結と共に九月二十日前後師団主力集結の為各駐地発
昭二一、三、一八	前後歩兵第九十三旅団司令部独立歩兵第九十七大隊独立歩兵第九十九大隊及独立歩兵第百大隊は順德縣羊額に独立歩兵第二百七十七大隊は同鳥州に集結す。 内地帰還の為各駐地発、独立歩兵第百大隊及独立歩兵第二百七十七大隊は、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	師団の才一梯団として他の各隊と共に
昭二〇、三、二一	廣東（七沙尾）出帆　和歌山県田辺上陸（？）歩兵才九十三旅団司令部独立歩兵才九十七大隊主力独立歩兵才九十九大隊及師団砲兵隊（才一大隊欠）師団輜重隊才一中隊　師団兵器勤務隊及師団防疫給水部は才二梯団となり旅団長の指揮に依り
三、二三	廣東（七沙尾）出帆
三、三〇	鹿児島上陸　同日復員完結す
	編成年月日　昭和二十年五月二十日
	編成地　中華民国廣東省中山県中山
	兵備改編　軍令陸甲才六五号に依り才百三十師団編成下令と共に旅団司令部編成
	渡支年月日　昭和二十年二月二十七日大陸新設部隊司令部要員として
	渡支当初の駐屯地　中華民国廣東省汕頭
	爾後三月三十日臨時編成し廣東惠来縣惠来に在りて沿岸警備　五月五日師団主力廣東転進の為惠来発　五月二十日廣東省中山県中山省廣東附近警備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第二百七十七大隊略歴

陸軍少佐　宮脇喜平次

年月日	概要	摘要
昭一〇、一一、一〇	上海の地に於て第百五師団独立歩兵第四大隊を編成完結	四月三日に於ける人員左の如し 内地帰還　一〇五〇名 死亡者　八五名 入院　九三名 （内八名内地還送済）
五、二〇	第百五十師団独立歩兵第二百七十七大隊編成完結	
昭一〇、三、四	廣東省汕頭港上陸	
同日	廣東省達濠島着、同地附近の警備	
五、四	移駐のため同地を出発	
五、二三	廣東省新会縣梅閣附近の警備	
九、二	停戦協定締結により順德縣烏洲に集結	
二一、三、二一	順德縣烏洲に集結し、帰還のため同地を出発	
同日	虎門塞出発	
四、一	浦塩港に入港せり	
四、三	浦賀要塞収容場に於て復員式を挙行し同日大隊は解散、将兵一同帰郷の途につけり	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第九十七大隊略歴

年月日	概要
昭一五、一二、五	軍令陸甲第五八号に拠り独立混成第十九旅団臨時編成下令
一二、一八	独立歩兵第九十七大隊編成完結　大隊長陸軍中佐中島
	大隊本部　歩兵四ヶ中隊
昭一六、三、二三	潮陽作戦
六、二八	黄岡城作戦
七、一二	
一〇、三	補大隊長陸軍大佐小松潤三
一八、六、一四	羊蹟作戦
六、三〇	
九、一〇	件秋作戦
九、二二	補大隊長陸軍中佐守田利一郎
一〇、二二	樟林作戦
一一、一六	
一五、一一、一八	潮汕地区の警備
一九、四、二九	潮桂作戦第一期（潮汕地区の警備）
八、一四	
一九、八、九	湖桂作戦第二期（自十一月五日至十一月二十五日）十五幕揭陽殲定戦）
一九、一二、一〇	湖桂作戦第三期（昭和二十年自一月二十三日至二月七日）二十冬揭普・殲定戦）
二〇、三、一	奥東地区の警備
二〇、五、一〇	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、四、一〇	補大隊長陸軍大尉三宮善人
五、五	軍令陸甲才六十五号に拠り才百三十師団臨時編成下令
五、六	次期作戦準備のため普寧出発
五、二〇	独立歩兵才九十七大隊編成完結
	大隊本部歩兵四ケ中隊機関銃一ケ中隊歩兵砲一ケ中隊通信一ケ中隊
五、二五	廣東着
	同地に駐留次期作戦準備並訓練
五、二一 九、二	廣東附近の警備
八、一四	停戦詔書発布
八、一八	軍令陸甲才百十六号に依り復員下令
九、二	停戦協定締結
二一、三、二三	内地帰還のため廣東（七沙尾）出帆
三、三〇	鹿児島上陸　三八三名
四、三	浦賀上陸　六二〇名　計一〇〇二名
	鹿児島　三八二名
	浦賀　六二〇名
	計　一〇〇二名　保隊名簿解除
	大隊長　陸軍大尉　三宮善人

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第十九旅団略歴

年月日	概要
昭一五、三、一八	軍令陸甲才五八号に拠り独立混成才十九旅団編成完結
	編成地、中華民国廣東省澄海縣汕頭市
	編成改正　昭和二十年五月二十日
	軍令陸甲才六五号に拠り才百二十師団編成改正
昭一五、三、一八	渡支、廣東省澄海縣汕頭市駐屯
昭一六、三、二三	潮陽作戦
六、二七	黄岡城作戦
昭一八、六、一四	羊蟹作戦
九、一〇	仲秋作戦
一二、一六	樟林作戦
昭一五、三、一八	潮汕地区の警備並教育訓練
昭一九、四、二九	湖桂作戦（潮汕地区の警備並教育訓練陣地構築）
昭一九、一二、二五	一九慕揭陽掃定戦
昭二〇、二、一三	一一〇条揭普惠掃定戦
昭二〇、五、一〇	興東地区の警備陣地構築

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、九、五	廣東地区の警備 陣地構築
昭二〇、九、一二	停戦のため廣東省徳縣半島に於て待命
昭二〇、三、二三	内地帰還のため廣東（七沙尾）出帆
三、三、〇	鹿児島上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第九十九大隊略歴

陸軍少佐　宮島丑太郎

年月日	概要
昭五一二五	軍令陸甲第五十八号に依り独立混成第十九旅団臨時編成下令
昭一六三一八	編成完結、大隊本部　歩兵四ヶ中隊
昭一六三一	潮汕地区警備
昭一六七二七	補大隊長　陸軍中佐　今岡宗四郎
昭一六七一四	黄岡城作戦
昭一七一一二	潮汕地区警備
昭一七二一五	牛田洋沿岸地区の戦斗
昭一七一二三	補大隊長　陸軍中佐　西川俊凡
昭一八六一四	潮汕地区警備
昭一八七一一	羊蠻作戦
昭一八九一一	潮汕地区警備
昭一八九二一	仲秋作戦
昭一八一〇一三	潮汕地区警備
昭一八一〇一四	四九一高地北麓地区の戦斗
昭一八一〇一三	潮汕地区警備
昭一九一二五	湘桂作戦（十九暮揚陽戡定戦）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、一一、二六～二七	湘桂作戦（二十冬期善惡戦定戦）　昭一九、一二、二六～二〇、一、二五、潮汕地区警備
昭二〇、二、二八	第三期湘桂作戦警備
昭二〇、三、一	補大隊長　陸軍大尉　中原　実
昭二〇、五、三～二〇	粤東地区警備
昭二〇、五、五	軍令陸甲第六十五号に依り第百三十師団、臨時編成下令
昭二〇、五、六	次期作戦準備のため汕頭出発
昭二〇、五、二〇	廣東到着　同地に駐屯次期作戦準備並に訓練
昭二〇、九、二～二一	編成完結
昭二〇、八、一四	大隊本部　歩兵四ヶ中隊　機関銃一ヶ中隊　歩兵砲一ヶ中隊　通信一ヶ中隊
昭二〇、八、一八	廣東附近の警備
昭二〇、九、二	停戦詔書渙発　停戦
昭二一、三、二三	軍令陸甲第百十六号に依り復員下令
昭二一、三、三〇	停戦協定締結
	内地帰還のため廣東（七沙尾）出帆
	鹿児島港上陸　復員完結
	大隊長　陸軍大尉　中原　実

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第十九旅団略歴

年月日	概要
昭一五、一二、一八	軍令陸甲第五十八号に依り独立混成第十九旅団編成完結
	編成地　中華民国広東省澄海縣汕頭市
	昭和一一年五月五日編成改正
	軍令陸甲第六十五号に依り第百三十師団編成改正
昭一五、三、一八	渡支、広東省澄海縣澄海市
昭一五、二、一八	潮仙地区に於て教育訓練並警備勤務
昭一六、六、二八	黄岡城作戦に参加
七、一三、一四	潮汕地区に於て教育訓練並警備勤務及討伐
昭一八、六、一四	羊頭作戦参加
九、一〇、一	潮汕地区警備並に教育訓練
九、一一、一〇	仲秋作戦参加
昭一九、一二、二五	十九暮揭湯戦定戦参加
昭二〇、一二、一九	粤東地区警備並陣地構築　此の間（二十冬揭普惠戦定戦参加）
二〇、五、二〇	廣東附近の警備並に陣地構築
二〇、九、二二	停戦のため廣東省順德縣仕版に於て待命

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一、三、二三 三、三〇	内地帰還のため廣東（七沙尾）出帆 鹿児島港上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百三十師団歩兵第九十三旅団独立歩兵第百大隊

陸軍中佐　高谷滝夫

年月日	概要
昭一五、一二、五	軍令陸甲第五十八号に拠り廣東省澄海縣汕頭に於て独立混成第十九旅団隷時編成下令、同日独立歩兵第百大隊編成業務に従事
一二、一八	編成完結、同日より汕頭市内警備兵力約七二〇名
一六、三、二八	潮陽縣潮陽縣城に移駐　同地附近警備兵力約一〇二〇名
一八、九、二八	警備地区交代の為潮安縣潮州に移駐　同地附近の警備
二〇、三、七	旅団警備拡張に伴い揭陽縣揭陽に移駐
三、二七	揭陽市出発　惠来縣達三墟に移駐警備
五、四	廣東地区に進駐のため惠来縣出発
五、二二	廣東省新会縣江門市着　同地警備
五、五	軍令陸甲第六十五号に依り第百三十師団編成下令
	同日独立歩兵第百大隊編成業務に従事
五、二〇	編成完結、兵力約一一三〇名
	同日より廣東地区の警備
八、一四	停戦詔書発布
八、一八	復員下令

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、一〇、二四	廣東省　復員のため集中宿泊に入結
昭二一、三、一八	復員のため集中宿泊　〃　開始
三、二一	廣東省虎門港ヘ七少尉ソノ他乗船出発す
四、一	浦賀港上陸　兵力一〇五三名
	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp